

# 人々と医師の助け合い

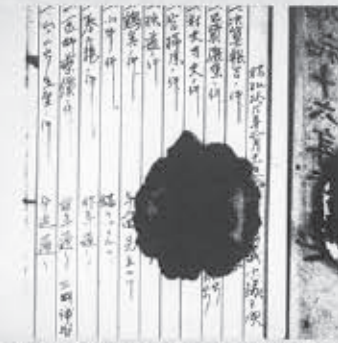
定礼や常礼と表されるこの言葉には、日頃から医師への礼を欠かさないといい気持ちで込められています。江戸時代から始まり、昭和の初期頃まで続いたとされる定礼は、国民健康保険の成立を後押ししたものであります。今月は福津市の誇る助け合いの歴史、「定礼」を特集します。

## 定礼とは

定礼は、地域の人々が医師に毎年定まった報酬を納めると、無料もしくは一部負担金を支払うことで、診療や投薬を受けられるという仕組みでした。医師に納める額に関しても、各人の経済状態に応じて定めるといふもので、収入の大きい人が多くを支払う、現代の累進課税と



▲定礼を今に伝える「定礼公園」(通り堂区)



▲定礼における医師報酬の協議録 (内殿区)

同様のやり方でした。そうして定礼に加わった地域の人々は、貧富の差に関わらず医療の恩恵を受けることができる、相互扶助の関係を作っていました。定礼と同じような取り組みは、県内や熊本県内の一部地域でも行われていました。しかし、宗像地域のように、集中的に、かつ長期的に持続した地域は他に類を見なかったとされています。

## 定礼 始まりの背景

一説には、定礼は江戸時代に始まったとされています。当時は度重なる飢饉などで、人々は貧しい生活を強いられていました。そのため、医療を受けて謝礼を支払うための収入もありませんでした。

一方で、医師は「医は仁術」という考えのもと、人々に医療を施した際には、自ら謝礼を求めめることはありませんでした。しかし、医師も収入が無ければ暮らしていけません。中には借金をしてまで医療を続ける医師もいました。しかし、生活の厳しさから、医師が村を離れてしまうことが多くみられました。

しかし地域の人々にとって、医師が近くに居ないことは、生活する上でとても困ります。それに対処するために、定礼が始めたと考えられています。また、医師も当時は現代のように安定した収入を得ることは難しい状態でした。定礼医となることで、一定の収入が約束され、生活の保障を得ることができました。

## 国民保険の誕生と定礼

昭和の初期、日本では世界に先駆け、国民健康保険制度を作ろうと模索していました。それ以前にも、職業単位で労働者の疾病保険はありましたが、農村や漁村の人々などを対象とした健康保険制度の整備は、前例の

ないことでした。特に、当時の世界恐慌による農村、漁村の疲弊は深刻でした。その人々にも健康保険制度を定着させることは重要な課題であると同時に、懸念材料でもありました。

このために、当時の厚生省は制度が実現可能かどうかを調べるため調査を行いました。そこで目を付けたのが、定礼が行われていた宗像地域でした。昭和10年頃に行われた調査では、定礼の実態を調査し、人々の相互扶助の意識の高さや、仕組みの完成度の高さに非常に驚かされたそうです。そして、この調査により農村地帯でも国民健康保険度が実現する可能性を見出せたとされています。その結果、昭和13年に国民健康保険法が制定されました。



▲定礼医高村直爾の貢献をたたえる碑

保険制度の加入は任意でした。これまで定礼が行われた地域では、政府の主導する国民健康保険には利点を見い出せない主張し、最後まで加入を渋る地域もあつたそうです。それほど当時の宗像地域などで行われていた定礼は、確立された取り組みでした。しかし、当時繰り広げられていた日中戦争の激化に伴う米の徴収開始で、定礼への支払いができなくなると、この制度は無くなっていきました。

## 産子養育

定礼だけではなく、かつて市内の地域では「産子養育」という相互扶助の取り組みもありました。

### 捨て子の禁止と忍照

江戸時代には飢饉が広がり、幼児の死亡や捨て子が頻発していました。その捨て子を無くそうと、忍照という勝浦のお坊さんが立ち上がりました。その忍照は、托鉢しながら、貧富や身体障がい、当時迷信で不吉とされていた双子に至るまで、全てが平等なのだという理念を人々に説き、

捨て子をしないように説得して回りました。そして、自ら資金を出すことに加え、地域の家々からも米麦を募りました。そして、その資金を基に、子どもの生れた家に同一の産着を送りました。産着を同じにしたのは、生まれた子どもはみんな平



▲勝浦地区の円通寺にある忍照の墓

等だという気持ちを込めたものだったとされています。その後活動は広がりを見せ、貧しい家庭の支援なども行われました。忍照の働きは徐々に成果が表れ、後を引き継いだ息子たちの働きもあり、捨て子は影をひそめるに至りました。

この産子養育は黒田藩からも注目され、藩の行う養育制度の確立にも影響を与えました。



定礼公園建設にあたり、当時の区長として尽力した通り堂区 赤司 龍之祐 さん

定礼は、私たち市民が誇りとして持てる歴史じゃないでしょうか。

かつてこの地域の人たちは、厳しい暮らしの中で生み出した助け合いの知恵と精神を脈々と受け継いできました。しかし、どんなにすばらしいことでも、語られないまましていると徐々に忘れられていきます。人と人の付き合いが希薄になりつつある今だからこそ、助け合いの精神の「定礼」を語り継いでいく必要があるのではないのでしょうか。

また公園に立つ石碑は、神興共立病院の門柱だった石を利用しました。取り壊されてからは、所在が分からなくなりましたが、それがかつての病院を知る人が一生懸命に探して見つけ出してくれました。定礼公園の建設には、たくさんのかたがたに協力いただきました。

# 人々の手で育まれてきた定礼

定礼という仕組みが成り立つ根底には、人々の「お互いにかかり合っているか」という意識がありました。

※からい合う…方言で「助け合う」の意味

宗像地域では  
多くの人々が加入した

定礼のことを記した著書「健保の源流 筑前宗像の定礼」(井上隆三郎著)によると、宗像地域では、大字単位では36地区と大島村が定礼を行っていたとされています。大字とは幕末や明治初期には村と呼ばれていたところで、宗像地域では合わせて63か所あったことを考えると、約6割の地域に定礼があったと考えられます。

しかし、これらの数字は上記の著者が聞き取り調査によって

集計しており、実際にはもっと多くの地域で行われていた可能性もあります。

## 宗像に住む人々の 連帯意識

現在の宗像地域に当る部分は、古来は宗像神社の神郡としてありました。そして、そこに住む人々は、宗像神社の氏子として強い連帯意識を持っていたとされています。そしてその意識が、人々の助け合いの精神を育む土台になったと考えられます。

定礼は、加入した人が病気や怪我の有無に関わらず医師への

報酬を納めなければなりません。年に一度もけがや病気をしない人は、支払い損でした。しかし、病気や怪我がいつ襲ってくるかは分かりません。定礼を行って



かつての医療相互扶助を知る  
岬診療所 医師  
石川 秀雄 さん

いる地域では、その住民のほとんどが加入していました。また、定礼医の子息が医学校に通う場合などは、学費を村人が出すなど、定礼に関わる人々と医師の間には、分け隔てない

関係がありました。また、定礼医の子息が医学校に通う場合などは、学費を村人が出すなど、定礼に関わる人々と医師の間には、分け隔てない

関係がありました。また、定礼医の子息が医学校に通う場合などは、学費を村人が出すなど、定礼に関わる人々と医師の間には、分け隔てない

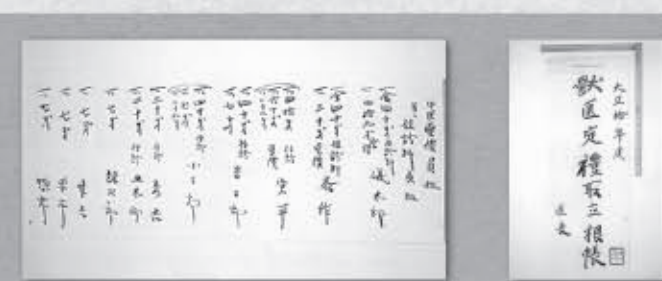
関係がありました。また、定礼医の子息が医学校に通う場合などは、学費を村人が出すなど、定礼に関わる人々と医師の間には、分け隔てない

関係がありました。また、定礼医の子息が医学校に通う場合などは、学費を村人が出すなど、定礼に関わる人々と医師の間には、分け隔てない



国民健康保険を担当する  
市民課  
花田 千賀子 課長

そこで、牛や馬の持ち主と獣医が助け合うために、明治36年に宗像郡獣医師会によって牛馬定礼法が制定されました。当時の牛や馬は働き手として不可欠で、ペットと同列に語ることはできません。しかし、動物の医療保険といった意味では、現代においても画期的な仕組みだったと言えます。



▲牛馬の持ち主や住診料が書かれた「獣医定礼取立根拠」

現代のようにトラクターなどが無い時代には、牛や馬が農業の重要な担い手でした。当時の人たちは牛や馬に餌をあげた後から自分の食事をとるなど、非常に大切に世話をしたそうです。しかし、ひとたび病気になるとうるすこともできません。一方で、牛や馬は数も少なく、病状を訴えることがありません。獣医も診察する機会がないために、収入も少なく生活に困っていました。

牛や馬にも  
定礼があった?



▲かつて定礼制度があった地区(大字単位)

現在	明池22年 時点の村	大字名			
福津市	神興村	津丸	手光	八並	
	上西郷村	上西郷	内殿	畦町	
宗像市	吉武村	吉留	武丸		
	赤間村	三郎丸	土穴	徳重	
		名残	富地原	田久	
	河東村	河東	須恵	山田	
		平等寺	稲元	池浦	
	東郷村	田熊	久原	大井	
		用山			
	宮田村	曲	朝町	光岡	
	野坂村	野坂	王丸	大穂	
	池野村	田野			
神湊村	池田				
田島村	多礼				
岬村	鐘崎				
大島	大島村				

助け合いがありました。

## 定礼医の姿

定礼医の暮らしは決して楽ではありませんでした。飢饉などで、人々の収入が減ると、定礼の支払いを減額したり、免除し

たりすることもしばしばありました。また、定礼の報酬として得た収入からは、医療器具や薬品、その他の費用まで捻出しなければなりません。費用が不足すると、自らが得る分の収入を削り、医療のために尽くした医師もいます。定礼を成り

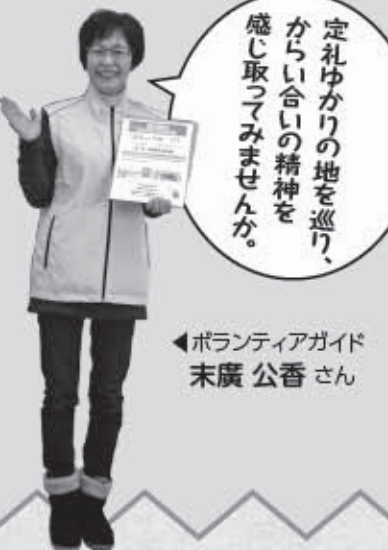
## 「定礼」制度を 辿る旅

定礼って何

江戸時代の終わり頃から始まったといわれる定礼。その足跡を辿り学ぶ旅です。

日時 2月26日(金) (集合9:15)  
集合場所 JR福間駅2階 ふっくる

募集人数 30人  
参加費用 200円(保険代等)  
(別途バス代に240円が必要です)  
※電話またはファクス、もしくは「ふっくる」で直接お申し込みください。  
申込、問い合わせ  
市観光協会、ボランティアガイド会(愛称 いさば会)  
☎42・9988  
FAX42・9989



ボランティアガイド  
末廣 公香 さん

定礼ゆかりの地を巡り、  
からい合いの精神を  
感じ取ってみませんか。